

第 8 期札幌市図書館協議会

第 1 2 回会議

議 事 録

日 時：2022年1月20日（木）午後2時開会
場 所：中央図書館 3 階 講 堂

1. 開 会

●事務局（中澤運営企画課長） 定刻となりましたので、ただいまから第8期札幌市図書館協議会第12回会議を開催いたします。

本日は、お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

事務局を担当する中央図書館運営企画課長の中澤です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席者は10名でございます。

欠席する旨のご連絡をいただいているのは、木村委員、武田委員、牧内委員、村田委員の4名です。宮間委員からは遅れるというご連絡をいただいております。

出席者数は、札幌市図書館条例施行規則第27条2項に規定するとおり、委員の過半数となっておりますので、会議は成立しております。

まず、議事に先立ちまして、本日使用する資料を確認させていただきます。

今回お送りしている資料として、次第、資料1のさっぽろ読書・図書館プラン、資料2の令和2年度来館者アンケート集計結果（概要版）、資料3のアンケートの詳細版、資料4の第2次札幌市図書館ビジョン取組項目の進捗状況（令和2年度）がございます。

その他、追加資料としまして、座席表を皆様の机上に配布しております。

不足している資料がございましたらお知らせください。

また、議事録作成のため、録音の必要がありますので、お手数ですが、ご発言の際には、マスクをしたまま、マイクを必ずご使用いただきますようお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、中央図書館長の矢萩よりご挨拶を申し上げます。

●矢萩中央図書館長 中央図書館長の矢萩でございます。

本日は、お寒い中、また、感染者が急増している中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

今日は、第8期図書館協議会の最後の開催となります。

第8期の皆様には、次期図書館計画の策定に当たりまして、途中、コロナで開催できない期間があったり、また、書面開催になったりということもございましたが、一貫して熱心なご議論をいただきましたことに深く感謝を申し上げます。

今日は、主に令和2年度の来館者アンケートについてご報告を申し上げまして、また、今後も含めたいろいろな考え方について皆様にご意見を頂戴できればと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（中澤運営企画課長） それでは、議事に移りたいと思います。

下田会長、よろしくお願いいたします。

2. 議 事

●下田会長 今日は、本当に道も悪く、雪もなかなかならず、肉体労働に疲れ果てている方々もいらっしゃると思うのですけれども、お忙しい中、ありがとうございます。

では、議事の次第に従って進めたいと思いますが、冒頭にお知らせというか、お願いが一つあります。

今日は、第8期の最後の会議となります。会議は2時間を予定しておりますが、議事を1時間ほどやった後、今回退任される方々がかなり多いので、その方々からのご挨拶の時間をつくり、一言ずつお願いしようと思います。

その後、会議を終了し、4時までの残り30分ぐらいを目安に議事録を残さない懇親の時間を設けて、そこでざっくばらんにお話をしてはいかがかと考えております。図書館の方々のご参加は強制ではないのですけれども、一緒にご参加をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●下田会長 それでは、そのように進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、議題に入ります。

●高倉委員 高倉でございます。

資料1は、一字一句の訂正、加筆はできないと考えてよろしいのでしょうか。

●事務局(砂村調整担当課長) まだ一字一句というタイミングではございません。もちろん、私どもではもう既に企画調整会議という内部的な会議を済ませておりますので、大きくということはできません。ただ、これからパブリックコメントのタイミングがありますので、それに合わせて何か変えるべきところがございますたら参考にさせていただきたいと思います。

●高倉委員 提案させていただいてよろしいということですね。

●事務局(砂村調整担当課長) ご提案は頂戴します。ただ、100%できるかどうかは分からないということです。

●下田会長 それでは、令和2年度、2020年度の来館者アンケートについてです。

事務局から説明をお願いいたします。

●事務局(南企画担当係長) 前回、第8期第11回図書館協議会においては、第10回のときにいただいておりましたご意見などを踏まえ、事務局で作成させていただいた(仮称)札幌市読書活動推進・図書館振興計画素案についてご意見をお寄せいただき、それに対する説明等を書面にてご説明させていただきました。

その後、市役所内部の合意形成のため、課長級、部長級、局長級の会議を経て、前回までにお示しした案から大筋で変更はなく、計画名をさっぽろ読書・図書館プランとしてお手元の資料1の計画案としたところです。

今後は、来月2月の議会報告などを経て、3月から小学生以上の市民を対象に意見公募手続とパブリックコメントを実施して、その結果を反映させた上で4月頃には正式に公表したいと考えているところです。

各委員の皆様におかれましては、これまで貴重なご意見を頂戴いたしましたことに改めて感謝申し上げます。

さて、本日ですが、これまで、協議会での議論については計画の素案策定スケジュールを最優先としてきたことからご報告ができておりませんでした令和2年度来館者アンケートの集計結果についてご説明をさせていただきたいと考えております。

お配りしております資料につきましては、資料1が先ほどご説明いたしましたさっぽろ読書・図書館プラン案、資料2がA4判の11ページの令和2年度来館者アンケート概要、資料3がA4判の33ページの来館者アンケート資料、資料4がA3判の第2次札幌市図書館ビジョン取組項目の進捗状況（令和2年度（2020年度））となっております。

本日は、主に資料2を使用してお説明いたします。

なお、資料4については、第2次図書館ビジョンの令和2年度における進捗状況です。昨年の計画素案検討の際、随時ご説明した内容となっておりますので、お時間のあるときにご覧いただきたいと思います。

それでは、令和2年度来館者アンケートについてご説明いたします。

このアンケートは、第2次札幌市図書館ビジョンにおいて、進行管理及び評価の手法の一つとして、利用者の要望や満足度をアンケート調査により把握していくものであり、毎年実施しているものです。

資料は、資料2の令和2年度来館者アンケート集計結果概要版、資料3の来館者アンケート集計結果の2種類をお配りしておりますが、資料2を基にご説明させていただきます。

まず、1ページの1の来館者アンケート実施概要についてです。

実施場所は、2にございますとおり、中央図書館とえほん図書館、図書・情報館、九つの地区図書館の全部で12館となっております。

回答数についてですが、5に記載のとおり、2,413枚を配布し、2,183人から回答をいただきました。全体の回答率につきましては、昨年度の89.3%から90.5%と回答率が上昇しております。

1枚おめくりいただいて、2ページの2の来館者アンケート回答者の年齢構成についてです。

この年齢構成については、アンケートの回答をいただいた方々の年齢構成となっております。来館者の構成を表しているものではございませんけれども、一定程度の目安にすることができるものと考えております。

分析については、3ページをご覧ください。

一番上の図書館全館の傾向としては、10歳代から20歳代がほかの世代と比較して極端に低いこと、70歳以上が2割超となっており、次いで、40歳代、60歳代が2割、30歳代、50歳代は1割超、20歳代の割合は1割未満となっており、昨年度とほぼ同様の傾向となっております。

続いて、1枚おめくりいただきまして、4ページの3の全体的な満足度についてです。

推移について、1の全館で、令和元年度と2年度を比較しますと、「満足」と「どちらかといえば満足」を合計した割合について、グラフの青線が示すとおり、89.4%から

92.0%へと2.6ポイントの増となっております。

その内容の分析ですが、5ページの下段の5の地区図書館における満足度の値が85.8%から89.9%と4.1ポイント増加となっており、このことが全体の満足度を押し上げた大きな要因と考えられます。

こちらについては後ほどご説明させていただきます。

続いて、6ページの4の図書館職員の対応についてをご覧ください。

この項目における「満足」、「どちらかといえば満足」を合わせたものの推移については、上の折れ線グラフが示すとおりとなっており、全ての施設で80%超と高い結果となっております。

続いて、7ページの5の項目ごとの各館比較についてです。

図書館全館の傾向として、どの館においても、半数超の方が「満足」、「どちらかといえば満足」と回答しておりますのが、本の種類・数、本の探し方や調べものの相談、館内の検索機や自宅などからのインターネットを活用した検索・予約システムの使いやすさ、図書館内の設備（照明・トイレ・冷暖房・表示など）、図書館だよりや中央図書館ホームページ等による情報提供、図書館職員の対応、全体的な満足度の7項目です。

対して、条例館12館全体として、行事の充実度、テーマ別の本の展示、映画、講演会など、子どもの成長に応じた本やイベントなどの充実と電子書籍の種類・数の3項目についても満足度が半数未満となっておりますが、これらの項目については、「分からない」や「無回答」との割合が非常に高く、回答があった中で見ると、おおむね7割以上が「満足」や「どちらかといえば満足」というのが実態です。

また、8ページ下段に記載がございますとおり、地区図書館9館の傾向に関して、前年度と比較して、行事の充実度以外は全て改善しており、「不満」、「どちらかといえば不満」の割合が1割以上なのは、本の種類・数、図書館内の設備（照明・トイレ・冷暖房・表示など）の2項目となっております。

これらについては、各地区図書館におけるサービスアップに関する努力の結果であると同時に、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な場面で変化したライフスタイルの一つとして、自宅時間増加に伴った読書価値の高まりのほか、公共施設の休館に伴う図書施設への気持ちの変化などがあったことも推測されるところです。

また、行事の充実度についても休館の影響が多少なりともあると考えているところであり、現在に至っても満足な行事展開を行うことができていない状況ですが、ユーチューブでの読み聞かせ動画の配信など、引き続きサービスの充実に向けて改善を図っていきたいと考えているところです。

最後となりますが、9ページの自由記載欄であります6のその他の意見・要望等についてです。

寄せられた意見、要望等は、中央館が104件、昨年度が149件、えほん図書館が36件、昨年度が42件、図書・情報館が101件、昨年度が139件、地区図書館9館が

422件、昨年度が488件の合計663件となっております。

どの施設においてもあった意見としましては、新刊や特定のジャンルの蔵書の増、イベントの充実、複数の施設にあった意見としては、検索システムの機能向上を望む声などとなっております。

なお、図書館の蔵書に関するご意見、要望は毎年お寄せいただいている項目でもありますので、引き続き参考にさせていただきたいと考えているところです。

令和2年度利用者アンケート集計結果の報告は以上でございます。

●下田会長 それでは、今の事務局からの説明に対してのご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

●宮間委員 1ページの5の回収結果を見ると中央図書館の回収率が特に低いのですけれども、これはどうしてでしょうか。

●事務局（南企画担当係長） 大きな要因として考えられることはありませんが、昨年同様の配り方で、1階での配布と2階カウンターでの配布です。2020年度も2019年度も1階のロビーに回収ボックスを設けておりまして、できるだけ感染に配慮した配付の仕方をさせていただいております。来館者の意識といいますか、なるべく短時間での滞在を呼びかけているところもあって、アンケートにに応じていただけなかったのかなと考えているところです。

●下田会長 ほかの館と比べて必ずしも同じ傾向でないような気がしますけれども、よろしいですか。

ほかにご質問はございませんか。

●齊藤委員 アンケートの結果のほかに意見、要望がありますよね。相関分析はしていないのだけれども、そういったようなことをする予定はあるのでしょうか。

というのは、夕べ、たまたま、国立国会図書館の利用者アンケートの「来館利用者アンケートにおける満足度・改善要望度について」（https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete/analysis_on.html）というサイトを見ていましたところ、満足度と改善要望度の相関分析というページがありまして、利用者が改善を望んでいる事項や優先的に対応すべき事項を明らかにするために相関分析をするのだとありました。

つまり、ただアンケートを取って、それをインフォメーション化するだけではなく、インテリジェンスというか、インフォメーションにパワーを持たせるというか、行動するための材料にするのだということです。

面白いのは、満足度が高い項目と低い項目を縦軸に、そして、改善要望度が低い項目と高い項目を横軸に取って4象限に分けて、満足度が低くて要望度が高いものを最優先に取り組む事項というような位置づけで説明がなされていたところです。

このように、アンケートを取る目的は利用者のために最優先に何を行うかを調べることで、そのために相関分析して導くのだと明快に説明しています。

こちらでも来館者アンケートはずっとやってきていると思います。利用者の利便性の向

上などが目的だということは分かるのだけれども、具体的に、このアンケートから我々は何を最優先に取り組むのかという答えを導き出しているわけではないのですよね。今後の課題となるのですが、もし導いていないとすれば、相関分析をして、何を最優先に取り組むのかを見極めるデータとしてのアンケートという位置づけにしてもいいのではないかと思います。

今のままだと、ただパーセンテージがインフォメーション化され、上がった、下がったということだけの様な気がするのですけれども、その辺はいかがでしょうか。

●事務局（砂村調整担当課長） まず、このアンケート結果は各館の館長会議などでお示しをした上で、もちろん、おっしゃったような満足度のパーセンテージをお示しすると同時に、具体の要望については字で記載されておりまして、それらについてご自身の館で分析を願いたいということでお示しし、その結果も頂戴しております。

ただ、今おっしゃられたように、4象限に分け、満足度の高い、低い、あるいは、要望の高い、低いというところまでは行えていないのが現状でありますので、今のお話自体は参考にさせていただきたいと思います。

いずれにしても、具体の要望については館長なりが意識をして日々の業務に生かしているかと思っておりますけれども、どれが第1優先で、第2優先でということまでは正直できていないのは事実ですので、今のお話は参考にさせていただきたいと思います。

●齊藤委員 国立国会図書館のサイトには非常に面白いことが書いてあって、回答者全員に対する各項目の回答割合に、「満足」は100、「どちらかといえば満足」は50、「どちらかといえば不満」は「マイナス50」、「不満足」は「マイナス100」を配点し、それを母数で割ることにより満足度を換算しているということでした。

改善要望は、回答者全体のうち、当該項目の改善希望を選択した人の割合をポイントとしたということで、数量化し、誰にでも分かるよう、分かりやすく導いているわけですが、学ぶべきところがあると思いました。

●下田会長 アンケートは、何のために、どういうことを改善するためにやるのかを明確に示した上で結果を分析していただければと思います。

毎年やっていて、同じ項目についての回答があって、伸びた減ったということではなくてということの第一歩だと思いますので、よろしくお願いします。

ほかにございませんか。

●郷原委員 資料3の33ページの「分からない」や「無回答」のことでお聞きしたいことがあります。

質問項目の②から④というのは「分からない」という割合がとても多いですが、これは以前のアンケート結果と同じ傾向になっているのではないかと私は記憶してしまっていて、結局、アンケートの趣旨であるサービスに反映されていないということになるのかなと思います。

反映させるためには、分からない理由を選択できる質問項目を設けるなど、利用者の思

いをつかめるようにしてはどうかと思います。②から④の項目は、わからない理由がつかめれば、来館者を増やすことにもつながるのではないかと思います。私はアンケート用紙の形式を知らないのですが、そうならないのでしょうか。

また、今回のプランの成果指標はアンケートによって利用者の満足度を出すようになっていますよね。より正しく実態をつかむためにも利用者の思いをすくい上げるような質問項目、選択項目を工夫しないと、いつも同じような結果が出てくるような気がします。

質問項目の④は図書館だよりや中央図書館ホームページ等による情報提供のことですけれども、図書館だよりについて私を感じたことがあります。

中央図書館の場合ですけれども、図書館だよりとこどもの森だよりがあり、それぞれに行事カレンダーというのがあるのですね。図書館だよりには大人向けのイベント、こどもの森だよりには子ども向けのイベントや行事が掲載されています。そして、この二つの置き場所はそれぞれ違うのですが、これでは全体のイベントが伝わらないような気がしていましたし、私も最初は図書館だよりしか知らず、子どもの読み聞かせのことは分かりませんでした。

例えば、アンケートの回答者は60代や70代の方も多いですよね。本人は子どものイベントに関心がなくても、全体が分かれば孫を連れてきてくれたり、誰かに話してくれたり、そういうことにつながるのではないかなと思いました。

●事務局（砂村調整担当課長） まず、アンケートについては基本的に選択肢を選んでいただく形になっております。したがって、分からない理由というような項目は立てておりません。検討はさせていただきますが、現状はそうなっているということです。

また、アンケートにどの程度書いていただけるかです。最近はインターネットのアンケートがたくさん流れてきますけれども、回答する上では、やはり、ある程度の時間を要してしまいますし、ご面倒だと感じられてしまうと回答率が下がっていくという傾向が出てきます。

ですから、こうした来館者アンケートについては、どこかに丸をしてくださいとして、時間をそれほどかけずに回答できるようにするということですが、そのバランスの兼ね合いが難しいところがあるかとは思っています。

それに、一番最後のところに自由記載欄がございますので、一旦はそれでと考えております。ただ、分からないという理由が分かれば今後の参考になるのではないかというお話については参考にさせていただきたいと思います。

また、図書館だよりや広報誌についてです。

ご指摘のあった場所が分かれていますので、分かりづらいのではないかということについて、担当係の者もここで話は聞かせていただきましたので、参考にさせていただき、よりよくするためにはどうするか、今後、具体的に何ができるかを考えたいと思います。

●郷原委員 ついでにお聞きしますが、このアンケートの結果がプランの成果指標の満足度に使われるわけですか。

●事務局（砂村調整担当課長） おっしゃるとおりです。

全体的な満足度という項目があり、「満足」、「どちらかといえば満足」、「どちらかといえば不満」、「不満」、最後に、「分からない」や無回答があつて、そのうちの一つを選んでくださいとしております。これは、本の種類から始まって、それぞれの項目について同じように五つから選んでくださいとしています。その中の全体満足度を指して、全体的な満足度の割合を出しております。

先ほどの分からないや知らないについては難しいところがありますが、おっしゃったように、ご高齢の方でもお孫さんがいらっしゃって、目に触れれば、ご家族同士で共有していただけるのではないかという話もあろうかとは思うのですが、ご自分の興味のないところをご覧にならないということからそういうお答えになることもあるのかな、多少やむを得ないところがあるのかなとは感じております。

●下田会長 ほかに、今の関連のことや別なことがあればお願いします。

●宮間委員 9ページのえほん図書館についての意見、要望の最後のその他のところに図書手帳のことが書いてあるのですが、これは何なのでしょう。

●事務局（砂村調整担当課長） 皆さんはお詳しいので、お聞きになったことはおありだと思いますけれども、本を読んだときの手帳というか、借りた履歴が分かるような手帳のことを指しているのだと思います。

えほん図書館では、何を借りたということまではやっておりますが、親御さんのご意見として、図書手帳みたいなものが欲しい、全国で行われているところもあるようなので、そういったものを導入してはどうかというお声なのだろうと思います。

えほん図書館では本を指定してはやっていないですが、絵本マイスターといって、お子さんが小学校に入るまでに1,000冊の絵本を読みましようという取組を行っています。このように、それに類するようなことは行っているのですが、これはやっていないので、そういうお声なのかなと思っております。

●下田会長 これは、読書ノートという地区館を含めたところでやっているものとのつながりというか、関連はあり得ませんか。

●事務局（砂村調整担当課長） おっしゃるように、そのことなのかもしれないですね。

えほん図書館でも置いているようなのですが、そのことがつながっていないのかもしれないですね。

私どもとしての受け止めは、読書手帳みたいな、それこそ、まさに読書ノートみたいなことなのかなとは思っています。

●下田会長 ほかにございませんか。

●齊藤委員 これは来館者アンケートで、利用者アンケートではないのですが、高齢者、障がい者など、図書館に来館することができない方でサービスを受けている方もいらっしゃいますよね。そうした図書館に来館することができない方へのアンケートもあるのでしょうか。

●事務局（砂村調整担当課長） 来館者アンケートは、おっしゃるように、お越しになった方です。ただ、今回話題になっている計画をつくる上での5年に1回のアンケートについては無作為で行っていきまして、おっしゃるようなものもごございます。

●下田会長 ほかにごいませんか。

●今野委員 アンケートの「不満」について、何が不満かというまとめはないのですか。

●事務局（砂村調整担当課長） これが不満だという書き方かは分かりませんが、要望として自由記載のところに書かれているものが足りていないのであろうということでそれを各館にお知らせをしております。

ご意見、提案などがありましたらご自由にとのことですけれども、不満が何であるかまでは項目として立てていません。例えば、具体的なものとしては、空調をちゃんとしてほしい、トイレを直してほしいというものなどは把握しております。

●下田会長 これは、先ほどの郷原委員や齊藤委員の言っていたこととつながりますよね。アンケートについて、何が不満かに踏み込んでいない、不満だけの数を数えているところがあるというようなことだと思いますので、検討していただきたいと思います。

ほかにごいませんか。

●豊田委員 まず、資料3を見ると、区民センターや地区センターでもアンケートを取っていると書いてあるのですけれども、その結果はどこで見られるのでしょうか。

資料2のまとめには入っていないような気がしています。

●事務局（砂村調整担当課長） おっしゃるように、資料2には入っておりませんが、資料3をご覧ください。

30ページが図書室と区民センターの結果です。概要版としては、今までもここまで載せていなかったのですけれども、今回、新たに質問は載せているということです。

●豊田委員 私は、アンケートを毎年やる必要はないのではないかと考えています。郷原委員もおっしゃっていましたが、私もこの委員を何年かやらせていただいていますけれども、似たような結果が出てきて、お定まりの文句のように、図書館としては、いただいた多くのご意見、ご要望を参考とさせていただきますという文言をつけるわけです。それに、地区館にしても、それぞれの努力はあるのかもしれませんが、そんなに大きな改変が行われたわけでもない中、翌年もまたアンケートをするということです。

こうなれば、利用者は、一昨年も答えたよね、去年も答えたよねとなって、今年にまた答えるモチベーションが湧かないのです。

図書・情報館やえほん図書館など、比較的新しいところは毎年取る意味はあるのかなと思いますけれども、地区館は別です。例えば、大きな改修をした、サービスを改変した、蔵書を見直したなど、何かがあったときに比較することはあったとしても、それなしに毎年やっても同じ結果が常に出て、それをただ繰り返しているだけで、あまり意味がないように思うのです。これだったら、3年に1度、5年に1度でいいのではないのかなという印象です。

それから、私が一番気にしているのは貸出し冊数がどんどん減っていることです。満足度は上がっているかもしれませんが。特に地区館、それから、ここではうまく数値としては出ていませんが、図書室などの施設の貸出し冊数は年々確実に減っています。そして、その分析を全くやらないまま、満足度調査で大きな満足が得られましたということでここ何年も来ているわけです。

図書館全館の傾向として70代以上が2割超みたいな話が出ていますけれども、10代から20代の子どもたちの利用がこれだけ少ないのだとすれば、もしかすると、今の地区館の蔵書構成が合っていないのかもしれない、あるいは、展示の仕方一つを取っても地区の住民ニーズとのずれがあるのかもしれないと思うのです。貸出し冊数が減っていることの分析を違う手法で分析してみたいという気持ちが図書館側になのかと思います。このアンケート結果の概要を見ても、ここから何かを学びを得ようとする情熱を全く感じないのです。

図書館側として、だんだんと貸出し冊数が減ってきているときに、どこが悪いのだろう、これはどうすれば改善できるのだろう、どうしたら住民の声を拾え、改善していくことができるのだろう、そういうことを知りたいと思わないのかなと思いますか、図書館側としてそういうアンケートを取りたいとは思わないのでしょうか。

●矢萩中央図書館長 豊田委員のご指摘は非常に胸に刺さります。どうして貸出し冊数が減っているのか、地区館については来館者数が減っているのかについては真剣に捉えなければいけない問題だと考えております。

これは遅かったと言われるかもしれないのですが、来年度は、幾つかの地区館を指定し、地域の団体や企業などを回ってアウトリーチの聞き取りを行いたいと考えております。どんな図書館であれば利用しやすいのか、利用したいと思うのか、そういったニーズ調査を改めて行う予定です。

●豊田委員 すばらしいと思います。どうぞよろしく申し上げます。そういう動きについて聞きたかったですし、うれしいです。

●下田会長 今はアンケートのことで話を進めていますけれども、当然、この資料1から資料3との関連もあるので、どうしたらよいですか。

●事務局（砂村調整担当課長） 一旦はアンケートのことで進めていただければと思いますが、あとはお任せをいたします。

●下田会長 分かりました。

では、アンケート集計結果についてほかに何かございませんか。

●高倉委員 資料1から資料3までが同列として印刷され、配布されるのでしょうか。

●事務局（砂村調整担当課長） 公表するというためのものといいますか、計画については資料1です。なお、資料2と資料3は、ホームページ等では公開いたしますけれども、計画としてのものではありませんので、あくまでも資料となります。

ですから、同列ではないということです。資料1が計画案として今後策定していくもの

です。

- 高倉委員 社会教育委員会会議等には資料2と資料3は配られるのですか。
- 事務局（砂村調整担当課長） 社会教育委員会会議ではお配りはいたしません。
- 高倉委員 あくまでも図書館関連組織の中だけで配るということですか。
- 事務局（砂村調整担当課長） この会議のほか、ホームページに出させていただきます。
- 下田会長 私からの質問というか、意見を言います。

今回のアンケートもそうなのですが、最近は西暦を入れずに元号だけという表記が多いのです。グラフで並んでいけば、こういう順番だと分かりますけれども、年号が飛んでいるのかどうか分かりません。

また、文章を読んでいくと、平成30年度の次に、突然、令和2年度になるわけで、この間がどうつながっているのかが分かりません。これは、日本人だから常識として理解しなければいけないのかもしれないのですけれども、気になって調べたら、西暦表記の義務づけ解除が2019年に行われているのです。つまり、西暦表記をしなくなってきたということなのです。

でも、例えば、今日のアンケート集計結果ですけれども、令和2年度と書いてあって、下には2022年度と書いてあるわけです。このつながりが非常に分かりにくいのです。私たちの頭では昭和と平成と令和がどうつながっているかも微妙になってきていて、西暦の併記については努力していただきたいと思っています。

実は、これは公文書管理審議会のほうでもお願いしていることです。公文書に関しては、西暦をなるべく付記または併記して、西暦をきちんと載せないと、データ処理するときにも困るのです。アルファベットで並んでしまうからでして、ここは検討していただきたいと思います。

ほかにございませんか。

- 齊藤委員 アンケートについてですが、書いてもらったものを回収しますよね。地区館でのアンケートは地区館でまとめ、数字だけが上がってくるのですか、それとも原本がこちらに来て、決まった期間、原本を保存しておくということなのですか。
- 事務局（砂村調整担当課長） 最後におっしゃったとおりで、原本が来まして、決まった期間、置きます。
- 齊藤委員 そのカウントは地区館でもするし、こちらでもするということですか。
- 事務局（砂村調整担当課長） カウントはこちらでしかしません。もちろん、地区館でも分かっているのですけれども、集計はこちらでします。
- 齊藤委員 保存期間はあるのですか。
- 事務局（砂村調整担当課長） 5年です。
- 下田会長 ほかにございますか。

（「なし」と発言する者あり）

- 下田会長 では、アンケート集計結果についてはこれで了解ということよろしいでしょ

うか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●下田会長 それでは、先ほど砂村課長から示唆をいただきましたので、いただいた資料4までについて、全体を見渡してのご質問やご意見はございませんか。

●高倉委員 特に、さっぽろ読書・図書館プランは、今回、タイトルとして初めて出てきたものと受け止めてよろしいのでしょうか。

●事務局(砂村調整担当課長) 皆様方の目に触れますのは今回が最初になるかと思えます。

●高倉委員 これが適切なかどうかというのはまた別ですけれども、要望をここで出させていただきます。

大勢に影響のあることではないのですが、これを読ませていただきますと、基本方針という言葉が19ページ、22ページ、29ページ、60ページの4か所に出てくるのです。この基本方針については混乱してしまうのではないかと思うのです。

60ページのように一覧表の形で出していただいたということは大変いいと思うのですが、ここまで来て、これはどこに出ているのだとなるので、基本方針というとき、これは30ページ以降のものを指すのだなということをもう少しはっきりさせたほうがいいのではないかなと思うのです。60ページの色で表した基本方針のところ、本文の何ページから何ページまでというようなものを入れることは可能でしょうか。

つまり、29と30に出したものがここにまとめて出てきているのだよということを示すと全体の流れが分かってくるのではないかということです。直ちにお答えいただかなくてもよろしいのですが、そういう要望です。

●下田会長 基本方針の番号なり何なりがあればページがなくても分かるかもしれませんが、工夫をしていただくということでお考えいただければと思います。

ほかにございませんか。

●今藤委員 大したことでないのですけれども、資料1の目次にコラムの目次はつけないのかなと思いました。

●事務局(砂村調整担当課長) つけさせていただこうと思います。

●下田会長 さっぽろ読書・図書館プランのタイトルについては、先ほど高倉委員からもありましたが、私たちは初めて見ているので、これがいいか悪いかの話はともかく、これまで、第1次図書館ビジョン、第2次図書館ビジョンと来て、これが第3次の図書館ビジョンに相当するものとなります。札幌市の読書推進のプランと合併したことでのこのタイトルになったということだと思いますが、例えば、2022など、時間が分かる文言をつけてもいいのではないかなと私は思っています。

皆さんから何かございませんか。

●福田委員 私も下田会長の意見に賛成で、実施計画は何年から何年ということについては西暦で入れたほうが良いと思います。

また、細かいことで申し訳ないのですけれども、さっぽろ読書・図書館プランの30ページの施策1の文字・活字文化に親しむ基盤の整備の丸がついて表されている3点についてです。

効果的、効率的な蔵書収集とあるのですけれども、蔵書収集という言葉は図書館用語では使いません。資料収集か、蔵書という言葉を使うのだったら蔵書構築です。

60ページと61ページの取組項目一覧の1にも効果的、効率的な蔵書収集とありますが、ここは表現というか、用語が変ということが一つです。

そして、まだ具体的に決まっていなかったのかもしれませんが、61ページの基本方針の全ての市民の学びと情報の拠点としての環境整備の(3)地域の生涯学習と情報の拠点となることを目指すの63の図書館データベースのPR(新規)についてです。

図書館のデータベースの意味するところは、図書館が契約して利用者が使えるようになっているいろいろな分野のものを意味するのか、図書館についての案内だけのデータベースなのかがいま一つ明確ではないので、図書館のデータベースの中身の説明が必要かなと思います。例えば、図書館で提供できるデータベースのPRなどとしたほうが分かるのではないかなと思いました。

●事務局(砂村調整担当課長) いずれも内部で改めて確認をさせていただき、直したほうがよければ直したいと思います。

●下田会長 確かに、図書館用語としての蔵書というのは、資料を収集した後のもので、その収集ということになると言葉の意味が少し違って来るような気がしますし、今の図書館データベースが具体的に何のPRなのかですね。確かに、これまでずっとあまり意識せずに見てきたかもしれませんが、確認していただければと思います。

ほかにございませんか。

●郷原委員 資料1の41ページのナンバー27の具体的な事業の内容に満足度や評価についての調査の継続とありますが、これはアンケートのことでしょうか。

そうであれば、アンケートに答える人たちが図書館と協働しているという実感が持てるようにしていただかないといけないと思います。これは市民との協働の項目ですので、もしアンケートでしたら、アンケートに答える人が図書館と私は協働してこれに答えているのだとなるようなものが欲しいです。

市民がどれぐらい参加するのか、私としてはとても関心を持っているところです。

●下田会長 私が聞き落としたかもしれませんが、アンケートについては対象として図書室等27施設も入っているのですよね。これは先ほどお聞きしましたか。

●事務局(砂村調整担当課長) 資料3になります。

●下田会長 資料3にあるからこちらにはないということですね。

●事務局(砂村調整担当課長) 概要には入っておらず、資料3の30ページになります。

●下田会長 ほかにございませんか。

●豊田委員 まず、タイトルに年号を入れるのは賛成です。

また、4ページを見ると、計画期間として2022年度から5年間と言っているのですが、5年後には見直しがかかるものだと思うのですが、それをどこかで明確化したほうがいいかなと思います。

●下田会長 ご検討に加えてください。

ほかにございますか。

(「なし」と発言する者あり)

●下田会長 もしなければ、このプランも含めて、内容についてはよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●下田会長 ありがとうございます。

それでは、今日の議題はこれで全て終了いたしました。

議題にかかわらず、全体を通して何かあればお伺いしますけれども、いかがでしょうか。

●宮間委員 この間、NHKのニュース番組で、どこの図書館だったかは覚えていないのですが、今、こちらの1階と2階でやっているように、窓口で貸出し業務を子どもたちに経験させる、また、書庫の中を見せるというようなことをやっています、子どもたちは非常に興味深そうに、生き生きとやっていたと見受けました。

こちらでも書庫の中を見せるということはやっていたというふうに前に聞いた記憶があるのですが、実際に図書の貸出し業務なんかを経験させることはやったことがあったのでしょうか。

●事務局(大久保地域支援係長) まず、書庫の見学についてですが、コロナがはやる前は定期的に募集してやっておりまして、令和2年度は1回実施しております。しかし、令和3年度は書庫の見学についてはできておりません。

次に、貸出し業務の体験についてですが、コロナの前は司書体験ということで中央図書館の児童書のあるところのカウンターに座ってもらい、横に司書の方がついて対応をしていました。しかし、こちらでも令和3年度はコロナの関係でできておりません。

●下田会長 それは中央図書館だけのことですか。

●事務局(大久保地域支援係長) 今確認できるのは中央図書館です。

●下田会長 北区民センター図書室では司書体験コーナーがあり、毎年、定期的に体験事業をやっているかと思うのですが、そういった情報は中央館ではないですか。

●事務局(大久保地域支援係長) 確かに、区民センターや地区センターの図書室でやっているところもあるとは聞いております。

●下田会長 この来館者アンケートでも、中央図書館だけではなく、札幌市の図書館全体を見回すとなっていると思いますので、そういった情報の収集はしていただきたいと思います。

では、本日の議題の審議はこれで終了としたいと思います、よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●下田会長 それでは、進行をお返しします。

●事務局（中澤運営企画課長） ありがとうございます。

それでは、事務連絡です。

先日送付させていただきました本日の交通費に係る請求書等について、提出がまだお済みでない方は事務局まで提出をお願いいたします。

そして、本日が第8期委員で行う最後の協議会となりますが、本日ご出席で退任される下田会長、吉岡副会長、今藤委員、郷原委員、齊藤委員、高倉委員、豊田委員、宮間委員から一言ずついただければと思います。

時計回りに、吉岡副会長からお願いしたいと思います。

●吉岡副会長 皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございます。

私自身も委員を務めることで図書館に関連する学びの場になったなと思います。本当に貴重な時間だったなと思います。

図書館は社会教育施設ですので、私たち市民がいつでも学べる場であってほしいなと本当に思いますし、まちをつくる上で図書館は欠かせないと思います。民主的で住みやすいまちをつくるため、市民一人一人が学んでいかなければならないわけですが、その上で大変大事な社会教育施設だと思っています。

私は幾つかこういった会議の委員をやっていますけれども、図書館協議会は本当に熱心に取り組んでいるものだなと思いましたし、図書館の職員の方たちも私たちと一緒に粘り強く取り組んでいただいたなと思っています。本当にありがとうございます。お世話になりました。

今回の計画では地区展開が要になると考えています。先ほど皆さん方が意見をおっしゃいましたけれども、その一つ一つが地区でどういうふうに行えるのかを大切にしたい図書館にこれからはなっていくらうれしいなと思います。

また、先ほど豊田委員が地区の調査についてどうお考えでしょうかという質問をされていましたよね。これは私の一つの提案ですけれども、例えば、地区館の調査ワーキンググループみたいなものを市民に呼びかけてつくり、調査するなど、今までにない、ある種、軽やかな形で市民と協働し、地区図書館を盛り上げていくというような取組があったらいいのではないかなという思いを持っています。場合によっては、今回退任する委員の皆さんを活用し、そういうワーキンググループなどをつくってもいいのではないかなという思いでもあります。

長きにわたりまして、皆さん、本当にどうもありがとうございました。

●今藤委員 第7期、第8期と2期にわたって協議会委員を務めさせていただきました。何も分からないところから始まって、今でもあまり分かっていないところですし、ほかの委員の意見を聞きながらついていくのがやっとでしたけれども、無事に任期を終えることができよかったです。と思っています。

今回届いた資料を読んで、最初のものよりもずっと分かりやすいと感じましたし、要望も取り入れており、うれしく思いました。

地区館の貸出しが伸びていないという話があったのですけれども、開放図書館が去年の3月末で119校になっているのです。ここでは、地域の方々のほか、小学生ももちろん借りているので、そちらが伸びているおかげで地区館が伸び悩んでいるのだとしたら仕方がないのかなと思っていました。生涯学習部に貸出しのデータがあるかと思imasuので、そちらと連携し、もうちょっと分析していただけたらいいのではないかなと思っていました。

また何かの機会がありましたら、こういう委員に応募してみたいと思っています。

4年間、ありがとうございました。

●郷原委員 思いもかけず、2期、4年間、携わらせていただきました。

前半は勉強会を通じて知らなかったことをたくさん気づかせていただきました。後半は計画の策定ということで、私としては利用者の立場から自分の考えを申し上げてきました。その中の幾つかは取り上げていただけましたので、勇気を出して発言して本当によかったなと思っています。

私は読み聞かせのボランティア活動をやっておりますけれども、この経験によって、今までと違った意義を読み聞かせに見いだすことにつながるのかなと思っています。

皆さんの意見もいろいろと聞かせていただいて、いい勉強になりました。

本当にありがとうございました。

●齊藤委員 7期、8期の2期にわたる4年間、委員を務めさせていただきました。

初めての図書館行政ということで、いろいろと勉強させていただきましたし、好き勝手に言わせていただきました。

図書館という場は、インターネットの時代にあって、唯一の情報源ではなくなってきたということがありますし、図書館に行かなくても情報が手に入る時代に私たちはいるのです。ただ、インターネットの世界は、やっぱり、うそも多いし、間違いも多いし、更新されていない情報も多いのです。

でも、図書館は蔵書があって、なおかつ、サポート、支援してくれる司書の方がいて、フェース・ツー・フェースでいろいろなことを教えていただいたり、質問したりできるわけで、こういう機能は永遠不変なものかなと思っていますし、デジタルトランスフォーメーション——DXの時代になっても、そういう基本的な利用者へのサポート、支援は変わらない機能だと思います。

学校へ行っている人たちは学校で勉強できます。会社へ行っている人たちも会社の人間関係の中で勉強できますけれども、退職し、または、高齢者になってひとり暮らしになったとき、何か自分の置かれている立場に気づかなかったり、これからどうしていったらいいのだろうみたいな状況に置かれることはあると思うのです。

そうしたときに図書館に行ったら何かの情報が得られる、支援の手が差し伸べられるというような場に今以上になっていくというのが市民とともに歩むこれからの図書館の姿、醍醐味なのだろうなと感じております。

これからも市民が活用しやすい図書館にしていただきたいと思います。

もし何かお役に立てる場があれば喜んでお役に立たせていただきたいと思います。

4年間、本当にお世話になりました。ありがとうございます。

●宮間委員 まずもって、この4年間、図書館のプランの改定に立ち合わせていただいたということをお大変ありがたく、光栄に思っております。私自身、力は大して出せなかったのですけれども、皆さん方といろいろ議論する中で出来上がっていったということは非常にいい経験だったなと思います。

それから、今回、認識を新たにさせてもらったことがあります。それは、豊田委員から再三出ておりました地区図書館の在り方です。私も専ら中央図書館にばかり来るものですから、地区図書館という存在すらよく知らなかったのです。そういう中で地区図書館というものを認識させてもらえまして、地区図書館が今後どういう運営の仕方であればいいのかということも考えることができたのは意義があったなと思います。

今後、図書館側では、地区図書館をどうやって運営していくか、地域性を反映させるということも含めて、ぜひとも引き続き検討していただければありがたいなと思います。

こういう機会をいただいたことについて感謝して、私のご挨拶としたいと思います。

ありがとうございました。

●豊田委員 いろいろとお世話になりました。もう自分で何年やったかは忘れまして。3期やったような気がします。

本当にたくさんお世話になったのですけれども、行政職員の方にはぜひ図書館業務を楽しんでいただきたいと思います。行政組織の中では図書館というのは割と特異で、市役所から遠く離れているということもあって多少の自由度があり、それぞれの創意工夫を生かせる余裕といいますか、ゆとりといいますか、アイデアを生かしてみよう、ここをこうやってみようという余地があって、そして、試行錯誤が比較的許されており、柔軟に物事に取り組んでいけるところだと思っています。しかも、市民がすぐそばにいて、例えば、蔵書にしてもサービスにしても、何かを変えるとビビッドに反応が取れますよね。それで市民はこういうことを心配しているのだ、こういうことに喜ぶのだ、今、まちはこういうふうに変ってきているのだなど、そういう市民の動きをすごく身近に感じることができるのです。ある意味、中央の行政と市民とをつなぐ窓口にもなれるのです。

皆さんは何年かすると違う職場に行ったり、図書館を自分たちの終の住みかとは思っていらっしやらないとは思いますが、たとえ2年間や3年間という限られた期間であったとしても、図書館に来た間、その少し許されている自由度を最大限に生かして楽しんでいただきたいと思います。

図書館をこうしてみよう、ああしてみようと思ってここでいろいろやると図書館は本当にすぐ変わります。それはすぐに数値に出ます。これは全国的にそうです。ちょっと変えるとすぐに住民の反応が出てきまして、本当に行政の組織の中では稀有な場所だと思っているので、ぜひ、行政の職員の人たちには、ここにいる期間を楽しんでほしいな、思

いっ切り仕事をさせていただきたいなと思っています。

最後まで要望だの苦言めいたことが多くて申し訳ないのですけれども、いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。

●高倉委員 あくまでも退任の挨拶という意味で語らせていただきます。

私も何期務めさせていただいたか、あまりはっきりしなくなってしまったのですが、大学にずっとおり、専門が社会教育だったということで、30歳半ばか40歳近くなってからこの種の会合にずっと出てきておりました、そういった意味では、ほぼ半世紀近くになるわけです。

多分、今日の会議がその種の会合の最後だと思っています。84歳になりますので、これ以上は無理だということですね。ただ、この間、自分は何で進化していないのだろうかと感じています。同じことを考えていて、もう一步踏み出せないでずっと来てしまったのではないかとも思っています。

発言のチャンスをもう一回いただけるようですので、それが一体何なのかということはその折に少しお話しさせていただこうと思っておりますが、こういう諮問的な会議というのはいろいろと制約が多く、あまり展開ができない面があって、私が進化できなかったというのはそういう枠から踏み出せなかったからなのか、結局、踏み出せないで終わってしまったというのが率直な意見、感想です。

でも、かなり高齢になってからこういったチャンスをいただいて、改めて脳みそをかき回されるような日々でした。でも、こういう形で日の目を見たということは私にとって大変喜ばしいことです。

特に、プランの作成に当たっては図書館の仕事に当たっておられる方々に大変ご苦勞をおかけしました。要望を率直に言わせていただいたり、脚注を大変たくさんつけていただいて、それを懇切に説明し、内容を分かりやすくしてもらいました。また、コラムなんかでいろいろな角度から考える素材、情報を設定してくださったということは今までになかった側面だと思っています。それも踏まえ、今回の答申案というのは大変今までにない出来だなと、何か上から目線で大変申し訳ないのですが、私はそんな感想を持っております。

繰り返しになりますが、年を取ってからこういったチャンスをいただいたことは私にとっては大変意義深いことでありました。

どうもありがとうございました。

●事務局（中澤運営企画課長） ありがとうございました。

それでは、最後に、下田会長より一言よろしく願いいたします。

●下田会長 少し長くなるかもしれませんが、申し訳ないです。

これまで、2016年から3期、実は、ここにいる吉岡副会長も高倉委員も豊田委員も第6期のときの同期でして、私たちはそこから始まっています。また、今日は欠席ですが、木村委員もそのときからいらっしやいました。

3期にわたって協議会の委員をさせていただきましたが、この間、委員の皆様と職員の皆様との中で何とかそれなりに役目を果たすことができたということに本当に感謝しています。

図書館法に定められた図書館協議会の役割というのがあるわけで、それをどのように果たすべきなのかを考えながら6年間やってきました。

第6期のときは生涯学習社会の中で札幌市図書館が果たすべき役割の答申というのを出しているのですよね。このときも結構熱い意見交換の中で図書館の方々と一緒につくりました。文科省が国の政策として求めている図書館の役割を共有していく、単なる読書施設ではない図書館をつくるということについて、皆さんで共有するというこのためにずっとやってきたのです。

第6期が終わった後、河村会長の後を引き継いで、私は次の第7期と現在の第8期の2期にわたってまとめ役を仰せつかったのですけれども、まとめ役というよりは、どちらかという、時々、ちゃぶ台返しをするような、皆様を困惑させたかもしれないのですけれども、館長以下、職員の皆様には面倒なお願いを多々しながら、国が求めている生涯学習施設としての情報拠点の役割をどうやって定着させたらいいのかを考えてきました。

単なる趣味としての読書施設ということが一般通念的に普及していて、ややもすると図書館の中でもそういうふうに使われているのではないかという中、現代社会の情報ニーズに応えるという役割をどう実現できるのかがテーマだったのだと思っています。

話は変わり、まとめ役として私が気をつけていったことが二つあります。それは、協議会においては全員で考えるということです。もちろん、図書館の職員の方々はいろいろな準備をしてくださいましたが、それも含めて、私たちが私たちのそれぞれの立場で何か一言言える関係をつくるということが大事ななと思っていました。いわゆる市民と行政との協働を何とか実現したいなと意識していたつもりです。市民の声を聞くということにつながっていくような、そういうことが協議会の役割でもあるので、そこは大事にしてきたということです。時々、言わされるみたいな形で指名されて困った方もいたかもしれませんが、何か一言、何でもいいからお互いに言おうというのが私の考え方でした。

もう一つ、持続性のある計画を立てるということがすごく大事だと思っていて、最近、特にテーマになったSDGsという誰一人置いていかない社会づくりに図書館が絶対に重要な役割を果たせると思っていたので、それを何とか盛り込みたいなという思いがすごくありました。これについては私たちが議論する中で少しずつ醸成できたのではないかなと思っています。

第7期のことを思い出すと、この4人以外に齊藤委員と今藤委員と郷原委員が加わって、2018年からの2年間はこれはこれでかなり密度の濃い協議会となりました。第2次札幌市図書館ビジョンと第3次札幌市子どもの読書活動推進計画——さっぽろっこ読書プランをどう合体させるか、市としてのスケジュールもありながら、そこを調整しながら合体させたのは、ある意味、すごく大きなターニングポイントになったのではないかなと思っ

ています。

生涯にわたる学習を支えるということ、生活や活動に役立つような場をつくっていくことは図書館のこれからにとって大事なことだということを経験できたのかなと思います。

非公式なワーキンググループのような形で、館長を交えて、日曜日の午後に集まっているいろいろな議論をしました。多分、職員の方々は、館長は何か陰で怪しいことをやっているのではないかと心配した方々もいたかもしれないのですけれども、全くそんなことではなくて、どうすればいいのか、随分と議論をしたのです。

そういう中で、私がすごく記憶に残っているのは、高安委員から、ご自身が社会教育委員の立場で、実は、地域の施設の活用という視点から本と人と文化を結ぶ図書館というのは生涯学習施設として非常に大事だ、真ん中に生涯学習センターと中央図書館がある、そういう構想を社会教育委員の中では議論しているのだということを経験していただいたことです。これは非常に大きかったです。先ほどは逆のパターンで、図書館以外にはとおっしゃっていましたが、そういう横の連携を示していただいたことはすごく心強かったところではあります。

やはり、図書館側の立場から見て、図書館がありますよと言っているだけでは生涯学習にはつながっていかないのではないか、市民が本を借りたり学習したりする機会に対し、図書館の存在感が本当にちゃんとあるのだろうかを見直すきっかけになるのではないかと、さらには、つなぎ役としての人の育成が大事だとおっしゃっていたことを覚えています。コーディネーターの人材育成、まさに、それは中央図書館を中心に考えなければいけないのではないだろうかということをおっしゃっていたように思います。

そうしたことを受けて第8期がありまして、私としてはどうしてもばらばらには考えられないのです。その都度、館長は代わっていますし、それぞれに新しい考え方はあると思いますけれども、やはり、持続的にサービスを提供していくためには、これまで何を積み上げてきて、これから何をやるかということだと思っているので、私たちとしては、この第8期というのはいよいよ形にできるかなのだという思いがあったような気がするのですけれども、残念ながら、こういう事態の中、4か月か5か月は休会状態となり、本来、去年の秋にスタートしなければいけない計画が2021年度中となったわけで、そんなことを経て今日に来ているわけです。

当初の（仮称）札幌市読書活動推進・図書館振興計画であったものが、今回、さっぱり読書・図書館プランとなりました。多くの時間を骨子案の構成や内容に費やしながらも、変則的な会議の中、十分に議論を尽くせたとはいえないかもしれないのですけれども、とにかく、こういう形でまとまったということは何よりかなと思っています。

こうしたことを通して私自身が学んだこともあります。郷原委員が図書館の理念が見えないということをおっしゃいました。みんなは分かっているから言っていないのかもしれないけれども、理念が見えないということですね。多くの事業を行ったり、新規の事業を加えたりすれば、ある意味、新しい計画のように見えますけれども、理念回帰ということ

への戒めだったのではないかなとすごく思っています。

そして、図書館がその計画を持続的にすることについて、ちょっと不安だな、できるのかなという思いはありましたけれども、でも、逆に可能性もすごくあるなとも思っています。先ほども言いましたけれども、誰一人取り残さない社会をつくることに貢献できるサービス体制をこれからどうつくるのかは、この中でさらに広げて考えていただきたいなと思います。

また、先ほども指摘しましたが、持続性の観点からも、やはり、書類上での年号の扱いについては本当に考えていただきたいです。元号だけではなく、西暦を併用するということは、たとえ国がそれを義務づけなかったとしても残してほしいと思います。

別に西暦ベースでやることで日本的でなくなるわけではありませんので、特に公文書の場合は意識してほしいなと思います。

長々とお話しましたが、皆さんとともに働くということを振り返ってみて、この場を借りて、助けていただいた委員の皆様、そして、職員の方々、館長を含めて、本当に感謝申し上げます。

3. 閉 会

●事務局（中澤運営企画課長） ありがとうございます。

退任される委員の皆様方には、これまで長きにわたり貴重なご意見を賜ったことにこの場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。今後、退任された後も、引き続き、図書館に対しては厳しいご意見、ご要望等をお寄せいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、引き続き第9期協議会にご参加いただく今野委員と福田委員については、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これで第12回協議会を終了させていただきます。

本日は、大変ありがとうございました。

以 上